

2022年3月7日

各位

三井住友信託銀行株式会社

森林ファンドへの出資について

(Hancock Timberland and Farmland Fund, New Forests Tropical Asia Forest Fund 2)

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、米国・豪州等グローバルを投資対象とする森林農地ファンド(Hancock Timberland and Farmland Fund、以下「HTFF」)、及び東南アジアの森林を主な投資対象とするファンド(New Forests Tropical Asia Forest Fund 2、以下「TAFF2」)への出資契約をそれぞれ2021年7月と2022年3月に締結いたしました。なお、上記2つのファンドへの出資は当社初の森林及び森林・農地ファンドへの投資となります。

HTFFは業界最大規模の運用額を誇るManulife Investment Management Timberland and Agriculture Inc.(以下「MIMTA」)によって運用されており、米国、豪州、南米といった森林・農地アセットの成熟市場に対してMIMTAの森林・農地ファンド管理・運営に携わる長い歴史と豊富な知見を元に、グローバルに分散された投資を行います。

TAFF2は豪州を拠点とするNew Forests Asia (Singapore) Pte. Ltd.(以下「NF」)によって運用されており、森林投資の成長市場であるアジアにて、NFの同地域における豊富な投資経験とネットワークを活かし、ブレンドファイナンス(※1)の手法を用いて気候変動対策や生物多様性の保護を目的とするインパクト投資も含めた森林投資を行います。

両ファンド共に、森林・農地のそれぞれのアセットにおいてFSC(※2)を始めとする国際的な認証を取得し、SDGsの各目標(※3)に対しても積極的に取り組んでいます。

当社では、投資対象や投資戦略の異なるHTFF、TAFF2それぞれのファンド投資を通じてグローバルに分散されたポートフォリオを構築すると共に、両者から異なる知見を獲得し、当社の法人トータルソリューション事業におけるお客さまが抱える森林アセットそのものや排出権等の森林に関連するアセットに係る課題に対してソリューション提供を行うこと、さらには法人アセットマネジメント事業において投資家のお客さまが森林ビジネスへアクセスできる土壌を構築することを目指し、新たなビジネスの提供に取り組んでまいります。

三井住友信託銀行を中核子会社とする三井住友トラスト・グループ(以下「当グループ」)は、存在意義(パーパス)「信託の力で、新たな価値を創造し、お客さまや社会の豊かな未来を花開かせる」を胸に、社会的価値創出と経済的価値創出の両立を目指しております。

インパクト評価を起点に資金・資産・資本の好循環を通じ社会課題の解決に貢献しつつ、当グループの持続的・安定的成長を実現します。

これらの方針のもと、当社は、脱炭素や各種インフラ等の領域をはじめとする様々な社会課題解決に資する事業や企業に対し、2030年までに累計5,000億円の投資を実施し、それを呼び水として機関投資家の資金を募り、2.5兆円の投資規模としていく計画です。

以上

(※1)ブレンドファイナンス: TAFF2では政府系金融機関やソブリンウェルスファンドといった公共性の高い資金と当社のような民間企業からの資金の両方を集め、気候変動対策や生物多様性の保護、持続可能な森林育成に対応することを本ファンドの投資目標の一つに掲げています。

(※2)FSC:Forest Stewardship Council(森林管理協議会)は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的に設立され、同協議会の基準を満たした森林や森林事業者には国際的な認証が与えられます。

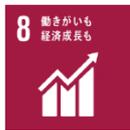
(※3)

森林投資に関連するSDGs目標

【8.働きがいも経済成長も】

【13.気候変動に具体的な対策を】

【15.陸の豊かさも守ろう】



農地投資に関連するSDGs目標

【2.飢餓をゼロに】

